

11-15の考古学

発掘調査で 何がわかる?

見学ノート



名前 大木Q(キュウ)
土器の表情
年齢 4800歳くらい
身長 36.5cm
趣味 縄文土器づくり



Qくんのモデルになった
本宮市の高木遺跡出土の
縄文土器

土の中に残された痕跡

わたしたちの足元、つまり地面の下には、遠いむかしから現代にいたる人々の営みの痕跡が残されています。これをわたしたちは、「遺跡」とよんでいます。この「遺跡」を適切な方法で掘りおこして、様々な情報を取り出し、記録して、未来へ引き継げるようにまとめる行為が「発掘調査」です。「発掘調査」は考古学の研究方法のひとつで、文字がないはるか昔や、文字がある時代でも、記録として残されなかった人々の暮らしの様子をうかがい知ることができます。

この展示では、県内のさまざまな遺跡の「発掘調査の現場」にスポットを当てて、むかしむかしの福島についてどのようなことがわかってきているのか、また、発掘調査はどのようにしておこなっているのか、わかりやすく紹介していきます。



名前 天光くん 名前 泉ちゃん
性格 好奇心旺盛 性格 しっかり者



遺跡はなぜ土の中にあるの?

『遺跡』と聞くと、エジプトのピラミッドや、ペルーのマチョピチュなどの特別な場所というイメージがあるかもしれませんが、でも、日本列島を生きたわたしたちの遠い遠い祖先が暮らし続けた痕跡は、ほとんどが土の中にあります。なぜ、土の中にあるのでしょうか。遺跡が遺跡になる前、そこに人が暮らし続けた時代にタイムスリップしてみよう!



だてに穴住居に住む家族が、団らん中。食事を囲んでいます。お父さんの大切な弓矢や石斧、穴を掘るための道具。お母さんが作った土器や土器。少年がつかっている木の実は、いれるかぶや、それらをすりつぶす磨り石や石皿など生活には欠かせない道具が所狭しとおかれています。



縄文家族の団らんから数千年。だれも住まなくなっただて穴住居の屋根と柱は朽ち果ててしまいます。近くに住民がゴミを投げ込むこともありますが、そして、落ち葉がたまる腐植土や雨水などで、土も流れ込みだて穴住居が埋まっています。



朽ち果てただて穴住居は数百年の年月をかけて完全に埋まり、腐ったになりました。おや、イノシシの親子がこちらをのぞいています。ここに縄文家族が暮らし続けた穴住居が埋まっているなんてだれも知りません。あなただけの足元にも埋まっているかもしれません。

発掘調査ってどんなことをしているの？

土に埋もれた遺跡が、建物や道路などをつくるための開発行為によって失われる前に、発掘調査をおこない遺跡の記録を残します。このような記録保存のための発掘調査は、主に都道府県や市町村の教育委員会が中心となって年間およそ8000～9000カ所でおこなわれています。ここでは、たて穴住居跡の発掘調査の流れを紹介します。



歴史の研究目的の調査は「発掘調査」といって、全国で年間3000件ほどおこなわれている。



土器や石器が落ちていないかさがし回り、地元の人に聞いて情報を集めます。遺跡があるかわかったら、その土地の何が所か試し掘り(小規模な溝を掘る)をして、どんな時代や性格の遺跡なのか、範囲や深さなどを調べます。



たて穴住居跡がどのように埋まっていったかを観察するために土の帯を残して掘り断面図(図1)を作成します。土のたまり方をみると、住居が使われなくなった後に一度に埋めてしまったが自然に少しずつ埋まったのかその土はどこから流れ込んだ土なのかなどがわかります。

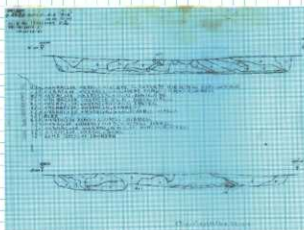


図1 土のたまり方を記録した「断面図」



土を平らに削って色の違いを見極めます。たて穴住居などの人間が地面を掘ってつくった場所には、周りの土と違う色の土がたまります。どうやら黒っぽい土は円形や扇形のたて穴住居跡が重なっている場所だったようです。



たて穴住居内にたまった土をすべて取り除いた段階で、写真撮影をおこないます。また、住居の大きさや柱穴や炉跡の配置などを記録するために、測量して平面図(図2)を作成します。近年はデジタル機器をつかって測量することも多くなってきています。

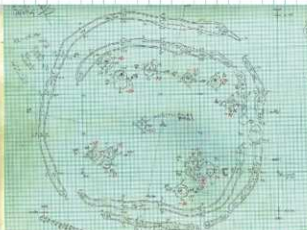


図2 住居の大きさや柱穴などを記録した「平面図」

発掘調査がおわったらどうするの？



発掘調査でみつかった土器や石器、作成した図面や写真は整理作業室に運ばれます。そして、調査の記録をまとめた『発掘調査報告書』という本をつくるための整理がおこなわれます。この『発掘調査報告書』が、開発によって壊されてしまう遺跡の内容を未来に伝えるものとなります。そして、出土品や写真などの資料は展示会で公開したり、活用するためにきちんと整理して、収納されます。



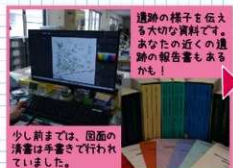
土がついている出土品は、水で洗ってきれいにします。錆目が消えたり、表面に傷がつかないようにブラシでいねいに洗います。乾燥後は、裏面の目立たない箇所に出土情報などを書き込みます。



元のかたちになぞるように、修復します。土器の特徴や出土した地点を参考にしながら、破片をつなぎ合わせます。しかし、すべての破片が完全な形に組みあがるとは限りません。破片がみつからない箇所には修復剤をいれて形を補います。



土器や石器などの出土品をよく観察して、大きさ・形・文様・特徴・製作技法などの情報を図で表現していきます。また、土器の文様などをあらわすために拓本をとることもあります。



少し前までは、図面の清書は手書きで行われていました。パソコンで、断面図や平面図、出土品の実測図、執筆した文章などを編集していきます。できあがった発掘調査報告書は、まほろんや県立図書館などで、誰でもみることができます。



福島県教育委員会が発掘調査した出土品や調査時に作成した図面・写真などは、まほろんに収蔵されます。必要がある時にはすくに取り出せるように様々な工夫をしながら完全に保管しています。



まほろんでは、収蔵品を保管するだけでなく、多くの方に楽しみながら歴史と文化財への理解を深めることができるように、展示や昔の技術にふれることのできる体験学習などで活用をしています。



未来へ引き継ぐ

発掘すると次々に新しい発見があるので、どんどん発掘したほうが楽しいと思います。でも、遺跡を残しておけば、科学技術が進歩したときに、より精度の高い調査ができるようになります。実際に、近年の調査技術や出土品の保存技術の進歩には目を見張るものがあります。しかし、遺跡を守るためにすべての開発を止めることはできません。福島県文化財センター白河館（まほろん）は、今できる最善の方法で遺跡の情報と出土遺物を保存し、これを多くの人に知っていただき、未来に引き継いでいくという役割を担っていきたいと考えています。

115の考古学

令和7年度発掘調査

発掘調査で何がわかる？

発行日
開催期間
編集・発行



令和7年6月14日
令和7年6月14日（土）～9月23日（火）
（公財）福島県文化振興財団
〒961-0835
福島県白河市白坂一里段8-6
TEL: 0248-21-0700 FAX: 0248-21-1075